平成30年度学校評価 年度末評価まとめ

本年度の重点目標	1	基本的生活習慣の確立	2	授業と家庭学習の充実
	3	進路実現に必要な能力の育成	4	自立的な健康管理力の向上
	5	読書活動の推進	6	生徒会活動の充実
	7	産業の複合化への対応と職業教育の充実	8	教育活動の効果的な広報

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	・防災体制の充実 ・広報活動の充実 ・PTA活動の充実	・避難訓練（年3回）と集団下校訓練、避難所体験を実施する。 ・行事の記録写真を撮る。校門の左右に横断幕を設置する。 ・PTA役員と連携をとり、各専門委員会が活発に活動できるようにする。	・避難所体験の参加者が増えるよう工夫する。（早い時期からPRを始める） ・教員の防災訓練を充実させる。（現職教育の利用など） ・各行事などのホームページの更新は順調に行うことができた。 ・横断幕を更新し、枚数を増やした。（情報発信量が3倍となった） ・各委員会が活発に活動できた。（カルチャー教室や研修旅行の参加者増加など）
教務部	・基礎学力の向上及び授業と家庭学習の充実	・全職員に授業の規律確保と充実に向けた方針をしっかりと伝え、全教員が一丸となり生徒の学習指導、授業規律の確保を目指す。また、各教科において家庭学習の充実をはかる指導を行う。	・学校評価アンケートの結果からも、授業規律・学習指導について良い評価を得ることができた。 ・各学期において、成績不振者が多かった。日頃の不振者指導についての対応を考えていきたい。
	・授業研修及び評価の研究	・アクティブラーニングなど、新学習指導要領の変旨に即した授業の研修及びその評価について研究を行う。	・新学習指導要領に向けて、本年度授業研修週間を設け、全教職員が研修することができた。日程が1週間と短期間であったため、不十分な所もあった。よって、期間を延ばしたり、実施を複数回にするなどの計画を見直すと共に、内容もより良いものになるよう検討していきたい。
生徒指導部	・安心・安全な学校づくり	・生徒や保護者にとって安心で安全な学校にするために工夫ある指導を行う。また、学校や家庭、地域と連携を密にし、生徒の安全・安心を第一に考え、充実した高校生活を送れるような指導を行う。	交通事故や不審者遭遇件数に関しては、他校と比較しても少ない。また、校外からの苦情件数も減少傾向にある。しかし、校内におけるいじめや特別な指導に関わる事案が増加傾向にあった。安全・安心という言葉の意味を幅広く捉え、様々な点で注意喚起、啓発活動に取り組んでいく。
	・基本的生活習慣の確立	・①挨拶②欠席・遅刻・早退、時間を守る③食生活を含む健康管理④整理整頓（頭下駄箱）⑤身だしなみ全般⑥モラル・ルールを守る等、生徒の成長を第一に向上を促す。	基本的生活習慣に関して、担任、学年、他分掌、保護者と連携を図ることができた。しかし、挨拶ができない生徒が増加傾向、特定の生徒に限り、欠席や遅刻が増加傾向にあった。また、特別な指導の件数が増え、モラル・ルールを守る等の点では反省すべき点がある。今一度、担任、学年と連携を図り、士台作りに努めていく。
	・人間形成の確立	・高校生としてあるべき人間像を理解させ、卒業後に豊かな人生を歩めるよう生徒一人ひとりにあった人間形成を行う。（自立を促す）	多くの生徒は担任、学年の協力の下、人間形成がなされ、成長を感じる。しかし、一部の生徒に関しては、価値観の多様化、低下から特別な指導を行うことがあった。
	・いじめや嫌がらせの根絶	・いじめや嫌がらせの根絶を目指し、生徒の変化に気づき、啓発活動、早期発見、早期対応、早期解決を目指す。	いじめに関して大きな事案が起きた。教員の見えないところで起きた事案ではあるが、生徒の様子や変化にいち早く気づき、未然防止の強化に努めていく。また、今後もアンケートや日頃の観察、生徒の声に耳を傾け、早期発見、早期対応に努めていく。
	・情報モラルの向上	・時代の変化に流させることなく、正しく対応、順応できるよう情報モラルの理解を深める。また、子どもたちを取り巻くSNS等の問題を把握し、早期発見、早期対応に務める。	人権週間行事の取組として情報モラルについて学ぶことができた。しかし、情報モラル違反として特別な指導を行う事案が起きた。生徒を取り巻く環境や時代の変化からSNS等の危険性は急速に上昇している。時代にあった知識を構築し、指導につなげることが急務と感じた。
保健厚生部	・自律的な健康管理能力の向上	・教員の観察能力の向上を図り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。	・学校全体として生徒の健康状態の把握は、スムーズに行われ、情報を共有することができた。記録は、担任の先生が行い、重要な内容は情報交換できており、問題はなかった。しかし、土日の部活動のケガなど、部細間と担任・保健室・管理職との情報共有ができておらず、部細間が抱え込むことなく、学校全体での情報共有を進めていきたい。担任の先生方の負担を軽減しつつ生徒を観察できるやり方を探すことが最も大切である。
		・講話や配布物などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。	相談だよりや保健だよりなどで、丁寧に健康に関する事柄を伝えるよう努力した。生徒が健康に関する基本的な知識を得ち、健康向上に自立的に行動できる態度が育成できるよう、努力した。
	・組織的な教育相談・特別支援教育の充実	・相談係会・教育相談委員会が学年等と連携し、柔軟な教育相談活動を行い、支援の必要な生徒には特別支援教育委員会を中心として対応する。	担任会や学年会、相談係・生徒指導部が十分連携して活動し、問題を把握したら、迅速な対応ができるよう、それぞれの件の生徒の様子の確認をこまめに行った。個別の支援計画等の作成も丁寧に行われた。
図書情報部	・図書館の利用促進	・館内の環境を改善・整備し、イメージの向上を図ることにより本の貸出冊数増加に繋げる。	図書室入口の整備をはじめ、図書室内部・司書室などを整理整頓を行い、見栄えを良くするために観葉植物やマスコットなどを配置し、生徒が利用しやすい環境整備を整えることができた。また、前期・後期の希望図書を新刊図書として陳列し、貸出冊数の増加に努めた。今後は図書委員会をこれまで以上に頻繁に開催し、図書委員からの意見を吸い上げ生徒の具体的なニーズを反映させる努力が必要である。
	・教育情報機器の活用	・各教室のネットワーク環境の整備を行うことにより、情報機器を利用した授業展開の促進を図る。	各教科が授業で使用するプロジェクタについて無線LANを利用したワイヤレス接続をはじめとした情報機器の活用例を職員に広く周知させることができた。また、プロジェクタスクリーン等の破損状況を把握し、新規購入することで授業に支障をきたさないようにすることができた。今後は教室棟のネットワーク環境を整え、インターネット接続を可能にする環境作りに努力したい。
	・学校HPの活用	・HP担当者の増員を図ることにより更新を頻繁に行う。	学校行事や全校朝礼をはじめとした個し事の度にHPの更新を頻繁に行うことができた。部活動のページや卒業生の進路状況、またPTA活動の報告やイベント紹介に関しても適切にアップする事ができた。各分掌主任の依頼が欠かさずあったことによる効果が大きいと考える。今後は、トップページのレイアウト更新やリンクページの古い情報を随時更新していくことが課題である。
進路指導部	・基礎学力の向上	・長期休業中、連休などを有効活用し、一般常識を中心に基礎学力の向上をめざし、問題集を購入し実施する。	・1年生は、長期休業の期間を利用し、一般常識の問題集に取り組ませることができた。また、知識の定着を図るために、学年でテストの実施を行うことができた。テストの回数が年に1回と限られてしまったため、LTの時間を計画的に利用していけるよう、今後検討していきたい。 ・2年生は、一般常識の問題集を2冊朝の時間と長期休暇を活用して演習させた。生徒の目に見える形での活用方法は今後の課題である。問題集のテストは、基本的に問題集をこなせばできる問題であるので、生徒自身の実力を試す場をもうけたい。 ・3年生は、一般常識の問題集に取り組ませたが課題中心であったため学力の定着度が低かった。また、中間考査時に実施した進路模試（常識テスト）と内容的にずれがあり生徒の取組を確認することができなかった。進路模試や定期的な校内テストと関連づけて問題集を選定し取組の成果をはかる仕組みにするとよい。
	・進路情報の提供	・進路説明会、保護者会、学校のホームページなどを通して、家庭への進路情報の提供を充実させる。	・1年生は、保護者会を利用して、進路情報の冊子を提供するなど、直接保護者に情報が行き渡ることを意識した。今後は進路に関する行事や取組状況などを発信する方法を検討していきたい。 ・2年生は、進路について学年集会や保護者会等を活用して情報を提供した。しかし、2年生ということもあり、具体的な動きにまで発展させることは難しかった。面接週間で他学年の先生にも面接をしていただいたが、一時的なものであった。進路決定は難しいかもしれないが、具体的な動きを早い段階から行っていく必要がある。 ・3年生は、PTA総会時の授業公開の時間に、進路説明会を実施した。就職斡旋や進学の概要、奨学金の話が中心であったが、前年度の進学・就職の実績やポイントを伝え、紙面では伝えにくい情報も保護者に伝達するとよい。そのためには、現在50分の説明時間では大幅に不足する。時間延長もしくは進路行事として保護者に対する進路説明会を各学年設定する必要がある。
	・進学先選択の幅を充実させる	・大学、短大、専修学校などの学校の特徴を理解させ、長期的な視野に立ち将来の職業選択に結びつける。	・1年生は、10月のR-CAP実施では、自らの適性に応じた職業を知るきっかけとなった。その上で、1月にはライフプランのガイダンス、職業別分野ガイダンスを実施するなど、将来の職業選択を意識させることができた。学校の特徴を細かく伝える場がなかったので、今後その時間を確保できるよう検討していきたい。 ・2年生は、進路ガイダンスを設けることで、生徒自身の進路に対して多角的に見る機会を与えることができた。しかし、生徒とガイダンスを行う学校との間で認識の違いが大きく生じることもあった。単純な選択をするのではなく、学部について幅広い知識を身に付けた上で進路選択を行えるように指導する必要性を感じた。長期的な進路選択の為の時間が足りず、単発的な活動にとどまってしまったことが課題である。 ・3年生は、進路選択の時期が迫ってから、校種や学科を調べる生徒が多かったので、余裕を持って、さまざまな角度から進学先を検討させることが必要だと感じる。1・2年次に学年でオープンキャンパス・行く講座を設しているが、その際、類似する学校や異なる校種を一覧等で提示できると視野が広がると思う。 ・これらのことを実現するためには、今以上に進路指導に関する時間が必要となる。放課後の利用については、部活動の活動時間の問題もあり難しい。現在、本校では「総合的な学習の時間」は「課題研究」で代替されているが、本校の生徒の実態を考えると「総合的な学習の時間」が必要と思われる。
特別活動部	・生徒会活動の充実	・生徒の自身を深め、伸ばす行事の充実	各クラスまたは学年、あるいは学校の代表として、生徒が地域や目上の方々からお褒めの言葉をいただいたり、表彰を受けたり、栄誉ある賞をいただくことがあり、自信につながっている。短期的な結果にならないように、自信を確実な成長にすることが求められる。
		・各学年会との連携を向上させる。	行事毎にアンケートや事後反省を行い、次年度に向けて、データ化し資料を残した。そのため前年→本年→次年度へと担当者が変化しても正確に対応できるようになってきた。 貴重な少ない意見に対しても対応ができるよう記録を残し続ける必要性もある。
		・学校行事等を早めに取り組ませ、より充実させる。	過去の記録を早めに、準備・伝達すること上により、反省点を再確認でき、早めの準備対応ができつつある。行事後も、来年度に向けて、正確に記録を残し、確実な伝達ができるよう準備しつづけたい。
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	・夏季休暇後から欠席・遅刻が増加した。原因の1つとして休暇中に普段通りの生活リズムを保つことができなかったことが挙げられる。今後は長期休暇前の学年集会で、これまで以上に規則正しい生活習慣を心がけるよう指導していきたい。
	・基礎学力の向上	・毎日の授業を大切にさせる。	・授業態度が著しく悪い生徒はいなかったが、毎回の授業に集中して取り組めていない生徒がいたため成績不振者が多く出た。今後は生徒の表情や理解度をこれまで以上に把握しながら授業を展開し、毎日の授業を大切にさせることで、基礎学力をより強固なものにしていきたい。
	・部活動や行事への積極的参加	・部活動や学校行事に積極的に参加させる。	・学校祭や球技大会など、生徒は積極的に取り組んでいた。各係の仕事など、個々が自らの役割を理解し、全体として行事が成功するように努めることができた。しかし、部活については転部が多く、積極的に取り組む姿勢がみられない生徒が一部いた。今後は後輩も入学してくるので、その模範となれるよう指導していきたい。
	・自主性、自律心、自立心の確立	・自ら進んで行動する力、自分に厳しく守る姿勢、自分の力で道を切り拓く力を身に付けさせる。	・生徒主体で学年レクの運営を行うなど、一部の生徒はリーダーシップを発揮し自ら考え行動できたが、まだ多くの生徒はこちらの指示なしで臨機応変に行動することができていない。今後は、特に「自主性」が身につけられるよう、生徒が考える場面を多く作っていきたい。
第2学年	・基本的生活習慣の確立	・進路の実現を見据えた生活習慣を身につけさせる。	人間関係をはじめさまざまなストレスを感じて体調を崩す生徒が多かった。保健室利用状況の確認や保護者との連絡、担任面談を行い、心身の健康状態を把握するよう心がけた。
	・進路実現に向けての学習意欲向上	・授業等の学習活動に意欲的に取り組ませ、進路への意識を高める。	一般常識のテストや、定期考査の学習会等、学習に取り組む機会を設定した。学習が習慣になってきている者も増えてはいるが、自主的には行えない生徒もいるので、引き続き学年全体で取り組むようにしたい。
	・学校行事、部活動の充実	・学校行事や部活動に積極的に参加させる。	学校祭は積極的に参加させることができた。また、部活動では部の中心になって活躍する様子を見ることができた。
第3学年	・進路指導の充実、連携	・自分を見つめ、現実から目をそらさないよう指導する。	・十分に保護者との連携を図ることができ、進路指導を行なうことができた。しかし中には先読みが甘く、急な進路希望の変更があった生徒もいた。 ・なかなか自分のことと捉えられない生徒もおり、こういう生徒に対する働きかけは今後も必要である。
	・自立性、社会性の確立	・生徒を信じ、任せる指導をしていく。成功したときは、「ほめる」指導も大切にしていく。	・「ほめる」指導は、大切にすることができた。しかし、生徒を信じ任せるには未だ難しく、社会性の確立の面から言うと、まだまだである。どこまで手やり生徒すべきなのかは、これからも課題である。そしてこの課題は、家庭との連携にも大きく関係している。
商業・情報処理科	・学科コースの特長を踏まえた取組の推進	・各コースの特色が出せるように、必要に応じて外部講師の招聘や地域連携、高度資格取得を目指す。	・課題研究における商品開発や観光コースの地域情報誌noci.com発行、販売士コースの2年間にわたるインターンシップなどを通じて、地域との連携を重視した取組を行った。今後も本校の特長を明確にし、他校との差別化を図りたい。
	・効果的な総合選択制の実施	・生活文化科と連携を図り、学校設定科目「電子商取引」の準備を進める。	・選択科目の説明会を適宜実施し、生徒が主体的に科目の選択ができるように心掛けた。2年次選択科目「ビジネス実務」においては、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を積極的に行った。来年度は、3年次選択科目「電子商取引」を実施し、引き続き産業の複合化に対応できる人材育成を目指したい。
	・専門的知識の習得と資格取得	・検定前に適宜補習を行い、生徒の資格取得に向けてきめ細かな学習指導を行う。 ・生徒に適宜課題を課すことで、家庭学習の充実を促し、検定前の補習に頼らない指導体制を整える。	・検定前だけでなく、日頃から生徒の理解度に応じて個別指導を行った。今後も学習指導の効率化や平準化を図り、検定合格率の向上を目指したい。 ・検定試験に積極的にチャレンジする生徒を増やすために、日頃から学ぶ意味や検定取得の必要性を説明し、生徒の学習意欲の向上を図りたい。
	・広報宣伝活動の充実	・HPや出前授業、体験入学や学校説明会などを通じて、積極的に総合ビジネス・情報処理科の宣伝活動を行う。	・HPの更新頻度に偏りがあった。今後は定期的に更新できるように心掛けたい。 ・生徒主体の出前授業や商品開発にも引き続き取り組み、成果を上げることができた。このような魅力ある取組を地域の方々に認知していただくために、効果的な宣伝方法を検討したい。
生活文化科	・専門的な知識や技術の習得と資格取得	・外部講師の活用や個に応じた指導を充実させ、各コースの専門性を高める。 ・各種の資格取得やコンクール等に挑戦させる。	・外部講師とともに講習会や実習を行ない、より専門性の高い指導を行った。また、個に応じた指導を充実させ、知識や技術の定着を図った。 ・資格取得やコンクールへの取り組みは、良い成果をあげることができた。来年度もコンクール等の内容を検討しながら指導を深めていきたい。
	・総合選択制科目の効果的な指導	・商業科と連携を図り、総合選択制科目「服飾手芸」の効果的な指導を行う。	・商業科選択科目の「服飾手芸」の実習は、到達度や技術に個人差が生じるので今後もきめ細やかな指導を行っていきたい。次年度行なう「ワードデザイン」についても、効果的な指導方法を検討していきたい。
	・学科行事および学校家庭クラブ活動の充実	・年間を通じて、学科行事や家庭クラブ活動への効果的な指導を行う。	・豊学校交流会やケアハウス訪問、障害者施設でのボランティア活動等を行い、他校や地域の人達と交流することができた。今後も生徒の社会性やコミュニケーション能力を育成する機会となるよう指導していきたい。
福祉科	・学科の特色を活かした進路実現	・担任や進路指導部と連携を図り、生徒の希望する進路実現を目指す。	・多くの生徒が福祉・医療系への就職及び進学を希望し、進路が決定した。進路に迷った生徒もいたが、その都度相談に乗ったり、情報を提供するなどして対応した。今後も進路実現に向けて早期に対応をしていきたい。また、看護学校への進学希望の生徒も増加傾向にあるため、対応及び指導方法について検討していきたい。
	・介護福祉士国家試験合格に向けた学習指導	・模擬試験の活用や補習を効果的に活用する。	・生徒の苦手分野の克服に向けて、早い段階から習熟度に応じた対応を行った。また、模擬試験の結果や過去問から出題の傾向を把握し、講義を行ったり小テストを実施するなどして対策を講じた。今後も継続して有効的な国家試験対策を検討していきたい。
	・新学習指導要領に応じた学習内容の把握	・新学習指導要領の内容を理解し、各科目の学習内容を検討する。	・科会において、新学習指導要領の伝達講習を行い、共通認識できるようにした。また、現在の年間学習指導計画を見直し、どの内容をどの学年で教授すべきなのかを検討し、来年度以降に活かせるように取り組んだ。新学習指導要領の実施に向けて、科内及び校内で取り組んでいきたい。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	1　基本的生活習慣の確立及び規律ある学習指導と家庭学習の充実を図る 2　進路実現に必要な能力を育成するとともに職業教育の充実に努める 3　教育活動の効果的な広報について、体験入学、学校見学会の内容を検討するとともにホームページによる各学科の教育活動の発信に努める。 4　在校時間等の充実記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。 5　教職員の年次休暇の計画的な使用や定時退校日を促進するための環境整備に努める。